

編集後記

紀要 46 巻 2 号が完成しましたので、お届け致します。今号は原著論文 5 編、研究資料 3 編、短報 1 編、特別寄稿 1 編が掲載されます。本号が予定通りに発行できましたのは、論文審査や編集にご協力いただいた皆様のおかげです。ここに記して感謝申し上げます。

さて、周知のように昨年 4 月末に 2018 年度からの科研費審査制度改革が発表され、体育・スポーツ科学については新たな審査区分と研究領域のキーワードの整備が提案されました。また、パブリックコメントも実施されたことから、本学も含めて体育・スポーツ科学に関係する学会はこの対応に迫られ、非常に多くの学会が意見や提案を行いました。本学も谷釜学長が直接文部科学大臣と面会して、従来の枠組みに近づけるように要望を提出しています。このような活動が功を奏して、昨年末、変更点はあるものの、本来の学問の枠組みがある程度は維持されることになりました。

言うまでもないことですが、私たちの研究領域は、こうした既存のパラダイムの上に成り立っています。しかし、科学そのものの認識の転換とは別に、ときには社会的に力を持つ組織の新たな提案や新たな考え方の導入によってパラダイムシフトが引き起こされることもあるのかもしれませんが。体育科学も 1980 年代後半に学問領域の中にアカデミックタブーであったスポーツという概念が導入されたことによって、ある種のパラダイムシフトが起こっています。こうした時期に様々な試みがなされ、紀要はそうした中での実験室としての役割を果たしてきました。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックは人類がこれまで経験したことのない、少子高齢化社会での開催となり、成熟した社会が迎える初めての大会でもあります。この大会を「如何に成功させるのか」については、体育・スポーツ科学においても別の意味でのパラダイム転換が必要なのかもしれません。このような時代の中で紀要は新しい科学を生み出す役割の一翼を担うことになるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、これまで長い間、本学の紀要を支え続けてくださった図書館副館長の谷口豊さんが 3 月末日をもって定年退職を迎えます。本学の紀要の発展にご尽力頂いただけでなく、本学の図書館を日本にとどまらず、アジアを代表するまでのスポーツ図書館に育てて下さった功績は筆舌に尽くしがたいものがあります。ここに記してお礼申し上げます次第です。(T.I.)

紀要委員会委員長

石 井 隆 憲

紀要委員会委員（五十音順）

井川 正 治	猪 瀬 武 則	岩 佐 克 彦	大 石 健 二
木 村 直 人	久 保 山 和 彦	西 條 修 光	島 田 功
谷 口 豊	西 尾 末 広	波 多 腰 克 晃	黄 仁 官
古 川 暁 也	細 川 節 子	本 間 啓 二	松 井 幸 嗣

日本体育大学紀要 Vol. 46 No. 2 2017 年 3 月

2017 年 3 月 25 日 印 刷
2017 年 3 月 31 日 発 行 (非売品)

編 集 紀 要 委 員 会

発 行 者 日 本 体 育 大 学

〒 158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1

TEL (03) 5706-0907 FAX (03) 5706-0913

E-mail webmaster@nittai.ac.jp

印 刷 中西印刷株式会社

〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL (075) 441-3155